

説明会議事録

第1回		芝山町立地適正化計画の策定に向けた住民説明会			
実施日	令和6年03月17日(日) 10:00~12:00	場所	芝山町役場南庁舎1階研修室	参加住民数	23名
資料	・次第 ・説明資料(芝山町立地適正化計画の策定に向けた住民説明会)				
<p>【第1部:概要説明】立地適正化計画とは、住民アンケート調査結果</p> <p>【第2部:これからのまちづくりについて】芝山町の現況をふまえたまちづくりの方針について</p> <p>⇒ 町より資料説明</p> <p>以下、質疑応答(主なもの)</p> <p>[医療・福祉環境の充実について]</p> <p>出席者 : 医療機関や福祉施設の誘致は考えているのか。</p> <p>芝山町 : 実際の誘致等は本計画では行わないが、拠点を整備することで、医療施設や商業施設が入りやすくなるのではないかと考えている。</p> <p>出席者 : 医療施設は総合病院を想定しており、一定の敷地を残しておかないと誘致が難しくなると思う。</p> <p>[計画策定後の詳細な計画、届出について]</p> <p>出席者 : 本計画は、いつ頃の策定を目指し、何年計画となるのか。計画策定後にその詳細な計画はどのように作っていくのか。</p> <p>芝山町 : 本計画の策定は2ヶ年で進めており、令和7年4月頃に公表したいと考えている。本計画は2040年の将来を予測した中で方向性を示し、それを具体化する実行計画として、例えば、小池地区や川津場地区、千代田地区といった拠点整備が進められていく。</p> <p>出席者 : 民間からの届出とは。また、町では宅地開発に関する指導要綱や条例は整っているのか。</p> <p>芝山町 : 届出については、本計画では「誘導区域」を設定し、誘導区域外で一定の住宅開発を行う場合には届出が必要となる。国の法律で定められているため、誘導区域を設定した市町村は届出を求めることとなるが、まずは町が開発を把握するということである。また、町では宅地開発指導要綱という開発する際の技術的な基準があり、これを持って審査を行っている。</p> <p>[既存集落について]</p> <p>出席者 : 本計画は主に新規住民を対象としているような印象であり、既存集落の人たちに対し十分なケアを一緒に実施していく必要がある。</p> <p>芝山町 : 町としてはコンパクトなまちを作っていくという方向性だが、既存集落の方々に対しそれを強制するものではなく、緩やかに拠点到り居住や生活利便施設等を誘導していくものである。既存集落と拠点を公共交通で結ぶことで、既存集落の方々もそのメリットを享受できると考えて</p>					

いる。

[住工（物流施設）混在、簡易水道について]

出席者：千代田地区の開発について、今後も物流施設が増えていくと思われる。物流施設が混在することは、居住地としてはふさわしくないと思うが、町ではどのように考えているのか。
また、上水道はいつ頃に整備できるのか。居住地の拠点から重点的に整備していくのか。

芝山町：空港に最も近い千代田地区では、空港従業員の増加を見据えた整備を目指しており、住宅と物流施設の混在は望ましくないと考えており、用途地域等を指定し、建物の用途を制限しながら整備を進めていく。

簡易水道については、令和4年度から事業を開始し、令和10年度内の一部給水開始を目指し整備を行っている。拠点整備にあたり、水道部局とも連携しながら検討を進めている。

[バスターミナルについて]

出席者：小池地区のバスターミナルは普通のバスターミナルとどのような違いがあるのか。また、いつ頃完成する計画なのか。

芝山町：バスターミナルについては、町内のバス停を集約し駐車場も備えたパークアンドバスライドなどの機能も持たせた発着場を考えており、拠点整備に伴う商業施設や公園の計画と併せて整備することにより、賑わいの一つとして相乗効果が生まれるよう計画している。時期については、本事業が区画整理事業であるため時間がかかるが、令和7年度末に県の認可を得る予定である。

[コンパクトシティのビジョンについて]

出席者：各拠点の整備によりコンパクトシティを作るというビジョンが見えてこない。芝山町全体を俯瞰した大きな都市計画は、50年後～100年後のビジョンを示した上で、何を進めていくか検討した方が私たちには分かりやすい。バスターミナルや病院など、細かい部分でバラバラに動いていても、本当にコンパクトシティと言えるのか。

芝山町：個々の事業や開発を並べているような印象になっているが、将来を見据え、今何をすべきかを考えている。将来人口については、人口減少が推計されているものの、拠点に人を集めることで、人口維持だけでなく社会増を見越して7,500人という目標を示している。目標を見据え、各計画を動かしていく必要があるため、町の総合計画も今後見直し、チェックする必要があると考えている。

[空港機能強化に伴う方向性について]

出席者：空港第3滑走路は2029年度完成の予定だが、この工事を生かした運営が課題である。

- ▶ 役場庁舎について、建替えに伴い、はにわ道沿道に移転させることが理想である。
- ▶ 公民館について、コミュニティーセンターに付随して図書館などを新たに作っても良い。
- ▶ 小中学校の児童・生徒の減少に伴い、小中一貫校とすれば、教育力の向上にも繋がる。
- ▶ 新ターミナルが芝山鉄道に接続すれば役場周辺まで延伸することも可能ではないか。役場と小学校跡地を空港移転用地等として活用すれば人口も増える。将来的には、成田空港周辺自治体で合併を行い、住みよい地域づくりの実現が可能であると考え。町の骨格を作り、共通の課題を持って町長・議会・町民が一体となりスピード感を持って進んでいくこと

が大事である。

芝山町：圏央道の整備や空港機能強化はチャンスであることは町の中でも共有できている。いただいたご意見については正にコンパクトシティの考え方であり、基本的な考え方はその通りである。行政の広域連携についても、空港圏の自治体と協力してまちづくりを進めていく視点は重要であると考えている。

[公共交通ネットワーク、防災対策について]

出席者：拠点間のネットワークについては、町内で限定されてる印象があり、他市町村との交通ネットワークの連携などももう少し発展させていく必要があるのではないかと。
また、「みどりのゾーン」について、土砂災害等へのハード的な対策などを考えているか。

芝山町：拠点間のネットワークについては、公共交通の部局とも連携しながら、その要素を取り入れて、本計画の策定を進めていく中で検討していきたい。
また、「みどりのゾーン」における土砂災害等の対応については、土砂災害警戒区域等を含まない区域に居住を緩やかに誘導していくという視点があり、来年度に防災指針というものを検討していく。その中では、ハード整備だけでなく、避難計画などのソフト対策も合わせて地域の方々と一緒に考えていく。

[住工（物流施設）混在、観光交流拠点について]

出席者：物流施設と住宅の混在は続いており、これからも続く懸念している。その中で、本当に魅力あるまちづくりになるのか。
また、拠点に関する説明で「観光交流拠点」が抜けていると思うが、どのような意図か。

芝山町：魅力あるまちづくりにおいて、物流施設と住宅の混在は課題である。物流施設を規制することは難しいところではあるが、町の東側の田園風景なども町の魅力と思っており、そういった住工混在は望ましくないと考えている。拠点を作るだけでなく、その中にきちんと景観や魅力ある公園などを作る視点も必要と考えている。
また、「観光交流拠点」について、本計画は、居住機能や都市機能などの視点を踏まえたコンパクトなまちづくりを進めるものであり、本計画の将来都市構造の設定では含めていないが、都市計画分野としては検討し、別の計画でフォローさせていただく。

以上